

自転車交通安全教育MOVIE『自転車交通安全ゲーム』を活用した授業の進め方について



制作：JA共済

監修：一般財団法人 日本交通安全教育普及協会

はじめに

自転車を取り巻く交通事故情勢について、交通事故件数の総数が減少傾向にある中、全交通事故に占める自転車関連事故の割合や自転車と歩行者の事故の発生件数は増加傾向にあります。また、自転車乗用中の死亡・重傷事故のうち、約4分の3には自転車側にも法令違反があるなど、自転車を取り巻く交通事故情勢は厳しい状況にあります。

このような背景を受け、近年、自転車の指導・取締りが強化されてきており、2026年4月からより簡易・迅速な処理を可能にし、刑事手続きによらない違反処理を行う制度「交通反則通告制度（いわゆる「青切符」制度）」が導入されることとなりました。道路を共有する者として、自転車も交通ルールに従い、交通秩序の維持に務める義務があります。

JA共済では、こうした状況のもと、悲しい交通事故を一つでも防ぐため、特に自転車事故率が高く、通学等での利用により事故リスクの高い高校生を対象に、改めて、正しい交通ルールを習得してもらうため、この動画（教材）を制作しました。

貴校における交通安全教育の一助としてご活用いただき、生徒の交通事故防止にお役立ていただければ幸いです。



はじめに	----- P1
制作の背景	----- P2
本教材について	----- P3
動画について	----- P4
構成	----- P5
授業展開の例	----- P6-P7
指導案	----- P8-P11
参照ウェブサイト	----- P12
公式特設サイトについて	----- P13



制作の背景

2026年4月から導入される交通反則通告制度（いわゆる「青切符」制度）

2026年4月1日より自転車利用者に対する「交通反則通告制度（いわゆる「青切符」制度）」が導入されることになりました。

対象は16歳以上で高校生も対象となります。信号無視やスマートフォンのながら運転、一時不停止、傘差し運転など、約113種類の交通違反が対象となり、反則金は3,000～12,000円程度です。

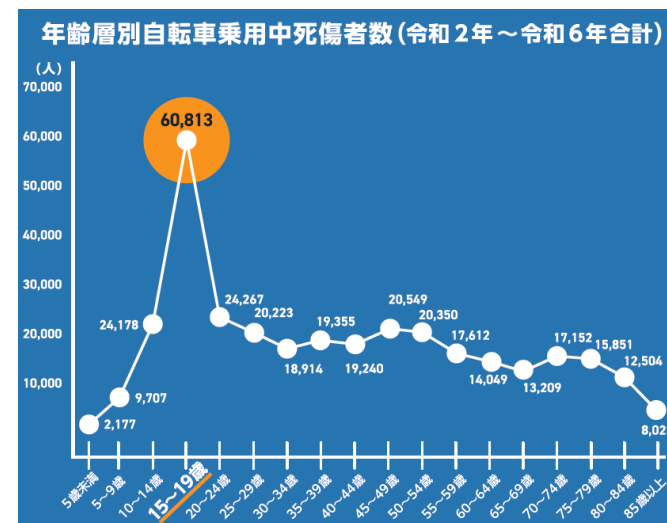
自転車を利用する以上、交通ルールを「知らなかった」では済まされず、改めて正しい交通ルールを広く周知し、理解してもらう必要があります。

高校生に多い自転車事故

自転車は道路交通法上「軽車両」に位置付けられており、車道左側通行はもちろんのこと、歩道では歩行者を優先し、車道寄りを徐行する必要があり、交通ルールに従って自転車を利用することがとても重要です。

しかし、自転車は歩行者の延長のように捉えられがちで、交通ルールを守らない危険な運転をしている人が少なくありません。中学生からは通学や部活動などで日常的に自転車を利用する機会が多くなり、行動範囲も広がることから、自転車事故のリスクが高まる傾向にあります。

右のグラフで示すとおり、15～19歳の高校生の年代を頂点に中高生の自転車乗用中死傷者数が多く、将来に夢を持ちながら亡くなってしまっている人がいるだけでなく、重い後遺障害を負ってしまったたり、相手を死傷させてしまい高額な賠償責任を負ったりと、将来へ大きな影響を及ぼす交通事故も少なくありません。



出典：令和7年9月警察庁交通局
自転車を安全・安心に利用するために－自転車への交通反則通告制度（青切符）の導入－
【自転車ルールブック】より



本教材について（全て特設サイトからダウンロードできます）

動画『自転車交通安全ゲーム』

サバイバルゲーム風のドラマ仕立てのストーリーで、自転車の交通ルールを身近に学べる動画です。

・問題動画

「知っているようで知らない違反」

「違反だと分かっているけどやってしまうこと」

をテーマに、傘差し運転や並走をはじめとする身近な違反を取り上げました。

・解説動画

ゲームマスターが登場し、問題動画で取り上げた違反を一つずつ、なぜ違反なのか、どうすればよいのかを丁寧に解説します。

指導資料・配付資料

・教師用資料（本資料）

50分の授業を想定した指導案を含む教師用資料をご用意しました。本教材の内容や動画のチャプター解説、高校生の事故の実態を裏付ける統計資料も盛り込んでいます。授業展開の一助になれば幸いです。

・ワークシート

今まで自転車乗用中にしてしまったことのあるルール違反やしてしまった理由、さらにはどうすれば安全に行動できるかを個人やグループで考え、話し合うためのワークシートです。自身の危険行動に気づき、交通事故防止への意識を高めるためにご活用ください。

・生徒用配付資料

「交通反則通告制度」や「自転車安全利用五則」の解説のほか、ヘルメット着用の重要性や事故を起こした場合に負う当事者責任等の情報をまとめた資料です。授業終了後にまとめ資料として配付するほか、生徒本人だけでなく、保護者の方に配付する資料としてもご活用いただけます。

動画について



【あらすじ】

平凡な男子高校生・田中さんが目を覚ますとそこは…
「教習所」のような異質な空間！
しかも正しく自転車のルールを守って走行しないと
元の世界に戻れない！？
たまたま居合わせたクラスメイトの山本さんとともに、
正しい交通ルールを学びながら
ゴールまで無事に辿り着くことはできるのか…？

主な登場人物

ゲームマスター

問題動画で問題の出題を行う。
また解説動画では、自転車の交通ルール
をわかりやすく解説する。



高校生・田中さん

現役の高校生。生真面目なタイプ。
毎日自転車通学をしているが、ゲームマ
スターから交通ルールを教えてもらうま
では正しい乗り方を意識したことはな
かった。



高校生・山本さん

田中さんのクラスメイト。クールな性格。
田中さん同様、自転車通学をしているが、
交通ルールを気にしたことがなく、知ら
ないうちに違反を繰り返していた。



構成

チャプターごとに視聴可能

問題動画は①～③に分けられており、それぞれに解説動画があります。

問題動画①②では「知っているようで知らない違反」をテーマに傘差し運転・並走・ながら運転・車道の逆走を、問題動画③では「違反だと分かっているでもやってしまうこと」をテーマに信号無視や一時不停止について取り上げています。いずれも高校生がしてしまいがちな違反を取り上げました。

解説動画では問題動画で取り上げた違反について、なぜ違反なのか、どうすればよいのかを丁寧に解説しています。

01


テーマ
知っているようで知らない違反①

7分16秒

傘差し運転 並走（並進）


問題動画では、雨天時の傘差し運転や友達と並んで自転車走行するいわゆる並走（並進）を取り上げ、解説動画でその危険性について解説しています。

チャプター1 問題動画①



4分37秒

チャプター2 解説動画①



2分38秒

02


テーマ
知っているようで知らない違反②

5分10秒

ながら運転 車道の逆走


問題動画では、イヤホン使用運転やスマートフォンのながら運転、車道の右側通行（逆走）について取り上げ、解説動画でその危険性について解説しています。

チャプター3 問題動画②



2分53秒

チャプター4 解説動画②



2分16秒

03


テーマ
違反だと分かっているでもやってしまうこと

5分46秒

歩道徐行等義務違反 信号無視 一時不停止


問題動画では歩道徐行等義務違反や信号無視、歩行者や他の自転車との衝突事故について取り上げ、解説動画でその危険性について解説しています。

チャプター5 問題動画③



2分46秒

チャプター6 解説動画③



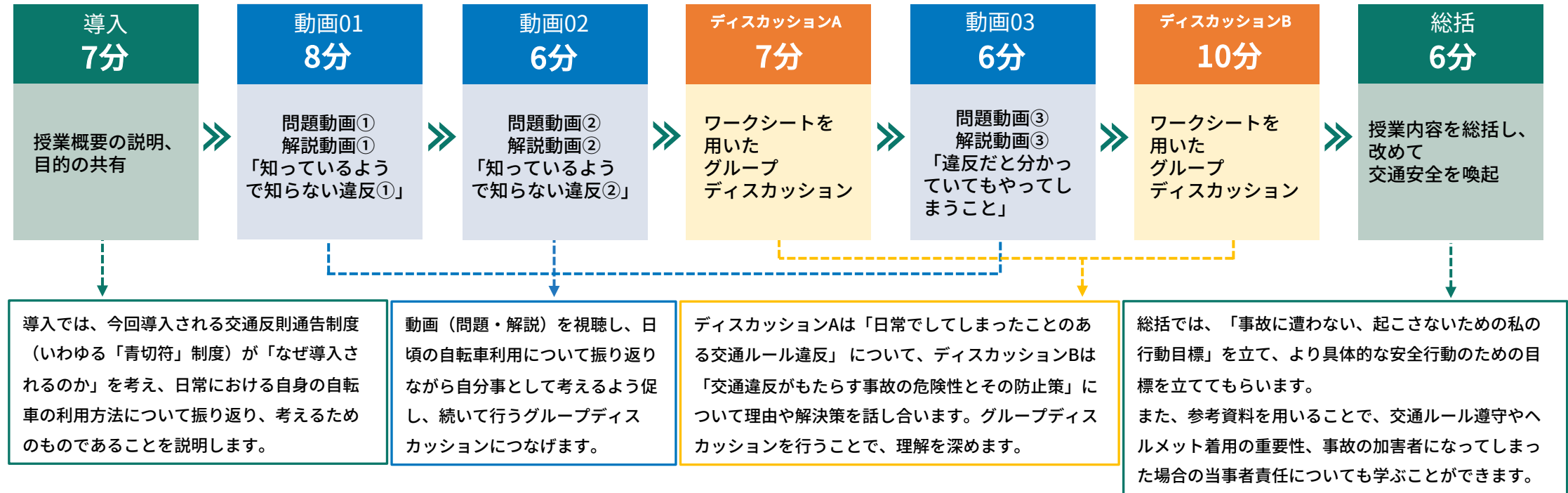
2分59秒



授業展開の例

全ての動画『自転車交通安全ゲーム』を視聴し、グループディスカッションを行う基本的な授業構成（約50分想定）です。

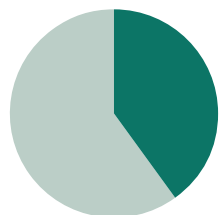
所要時間50分の場合
標準例



テーマごとの視聴や、解説動画のみの視聴など、授業の時間に合わせて活用することが可能です。

所要時間25分の場合

動画全編視聴のみ



25分

動画01 8分

問題動画①
解説動画①
「知っているよう
で知らない違反」



動画02 6分

問題動画②
解説動画②
「知っているよう
で知らない違反」



動画03 6分

問題動画③
解説動画③
「違反だと分かって
いてもやってしまう
こと」

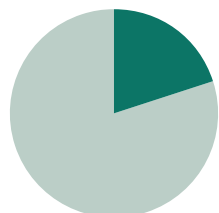


総括 5分

授業内容を総括し、
改めて
交通安全を喚起

所要時間10分の場合

解説動画視聴のみ



10分

解説動画① 3分

解説動画①
「知っているよう
で知らない違反①」



解説動画② 2分

解説動画②
「知っているよう
で知らない違反②」



解説動画③ 3分

解説動画③
「違反だと分かって
いてもやってしまう
こと」



総括 2分

授業内容を総括し、
改めて
交通安全を喚起



指導案

【テーマ】 自転車を安全に利用する （50分）

【ねらい】 自転車利用者の交通違反が社会問題化し、自転車が関与する交通事故も多く発生している。こうした状況を踏まえ、自転車の交通違反に対する指導取締りが強化されている中、交通反則通告制度（いわゆる「青切符」制度）が導入されることとなった。特に自転車乗用中の交通事故死傷者数で最も多いのは高校生の年代で、交通事故で亡くなったり、大けがをして重い障害を負ったりすることもあり、高校生活だけでなく将来に影響を残すケースもある。また、事故の被害者になるだけでなく加害者になり刑事責任や賠償責任を問われるケースも発生している。動画視聴後にディスカッションをすることで、日頃の自身の交通行動を振り返り、法令遵守の重要性の理解と、他者に配慮して安全に行動ができるよう、安全意識の向上を図る。

【準備物】 動画再生用PC等、ワークシート、生徒用配付資料

手順（時間）	指導・学習内容	留意点
導入（7分）	1. 学習を円滑に進めるため、ねらいや手順を説明する。 ① 動画視聴の合間にグループディスカッションや発表を行う旨を伝えておく。 ② 生徒用配付資料の交通事故統計を用いて、自転車事故の発生状況や交通違反の状況を説明し、交通事故が決して他人事ではないことを理解させる。	<ul style="list-style-type: none">○ 授業の流れをわかりやすく説明する。○ グループディスカッション時の司会役・書記を決めておく。 ○ 交通事故統計を用いて自転車事故が身近に発生していることを理解させる。○ 地域の具体的な交差点名なども用いて、日常の交通場面が想起できるようにする。

交通事故の状況

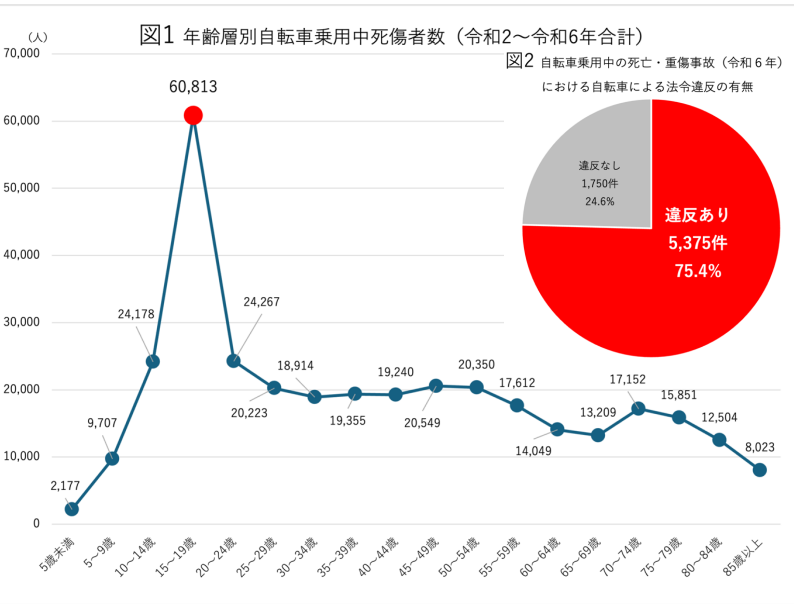


図1：自転車乗用中の交通事故死傷者数では高校生年代が最も多い。
図2：自転車乗用中の死亡・重傷事故は自転車側の約3/4に法令違反がある。

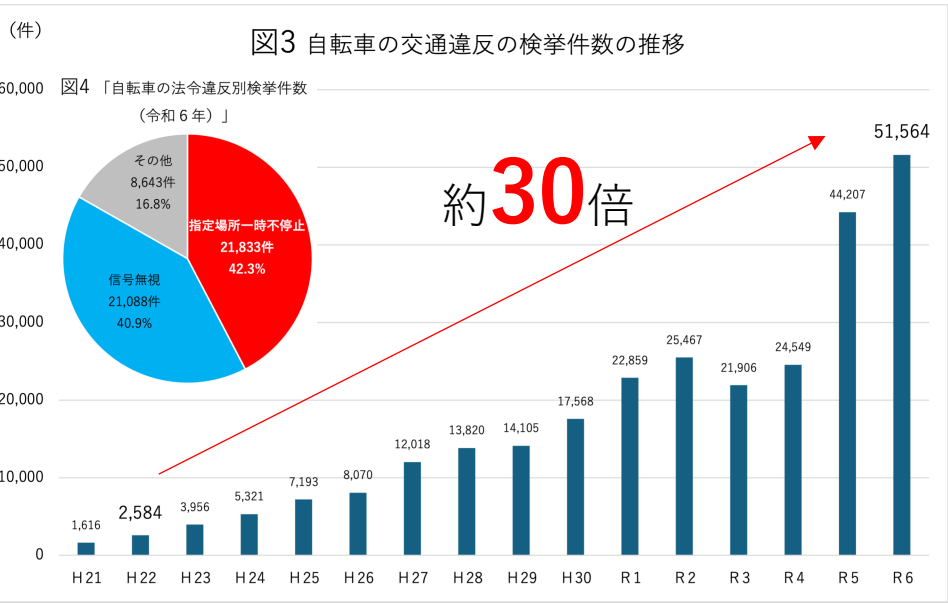


図3：自転車の交通違反の検挙件数が急増している。
図4：主な違反は一時不停止と信号無視。

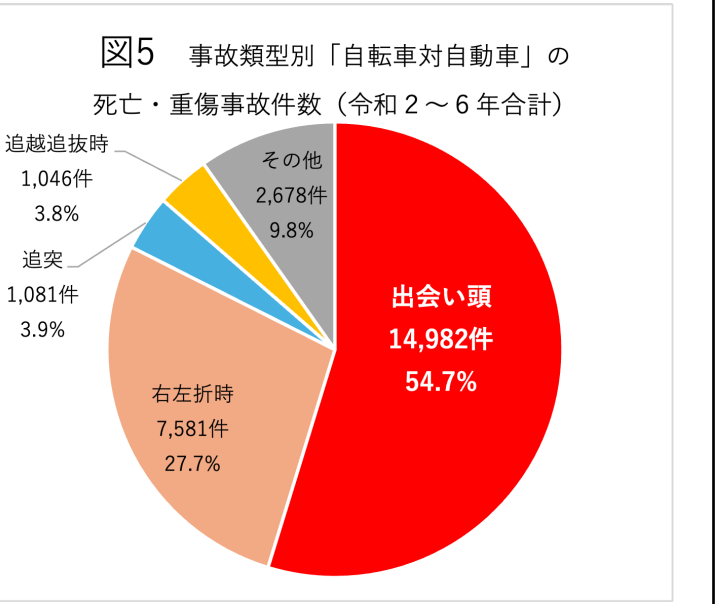


図5：対自動車事故の死亡・重傷事故では出会い頭や右左折時が8割以上を占めており、その多くは交差点で発生している。

手順（時間）	指導・学習内容	留意点
	③ 自転車を取り巻く交通事故や取締り強化の現状を理解させ、自転車も交通ルールを遵守する必要があること、さらに交通違反は指導取締りの対象になることを伝え、日常の自身の自転車利用方法を振り返るように促す。	○ 簡単に交通反則通告制度を説明する。

交通反則通告制度（いわゆる「青切符」制度）とは

交通反則通告制度（いわゆる「青切符」制度）は、**16歳以上の自転車運転者を対象**に、自動車の違反処理方法と同様に、**自転車の交通違反を簡易迅速に処理、責任追及する交通取締り制度**（2026年4月1日施行）。これまでは刑事手続きによる違反処理のため、状況によっては拘禁刑や罰金といった刑事罰（前科）を受け
る可能性があった。
ただし、**特に悪質な危険運転行為や事故を起こした場合**は、青切符では済まされず、**刑事手続きによって処罰**される。

主な反則行為と反則金額

反則金額	反則行為	反則金額	反則行為
12,000円	携帯電話使用等	5,000円	指定場所一時不停止等／無灯火／優先道路通行車妨害等／公安委員会遵守事項違反（傘差し・イヤホン使用運転等）
7,000円	遮断踏切立入り		
6,000円	信号無視／通行区分違反（車道の逆走）／横断歩行者等妨害等	3,000円	歩道徐行等義務違反／並進禁止違反／軽車両乗車積載制限違反（二人乗り等）

自転車安全利用五則

- 1. 車道が原則、左側を通行
歩道は例外、歩行者を優先
- 2. 交差点では信号と
一時停止を守って、安全確認
- 3. 夜間はライトを点灯
- 4. 飲酒運転は禁止
- 5. ヘルメットを着用

道路交通法上、自転車は軽車両。歩道と車道の区別がある道路では車道通行が原則。「普通自転車歩道通行可」の標識がある場合などの例外（※1）を除いて、歩道を通行することはできません。歩道が通行できる場合でも歩行者を優先（歩行者の通行を妨害してしまう場合は一時停止）し、車道寄りを徐行（すぐに止まれる速度で通行）しなければならない。

出会い頭の事故が多発しています。信号機のある交差点では必ず信号を守ります（※2）。また、一時停止標識・標示がある交差点や見通しの悪い交差点などでは一時停止して安全確認をします。踏切でも一時停止し、安全確認しなければなりません。

夜間の無灯火による死亡事故が多く発生しています。前方の安全確認だけでなく、自動車の運転者や歩行者に自転車の存在を知らせるためにも、夜間は必ずライトを点灯しなければなりません。

自動車同様に、自転車での飲酒運転等は厳しく罰せられ、青切符の対象にはなりません。場合によっては、拘禁刑や罰金といった刑事罰（前科）の対象となります。

事故の被害を軽減するため自転車乗用中はヘルメットを着用する。自転車乗用中事故の際に頭部の致命傷で亡くなるケースでは、非着用者の致死率は着用者の約1.7倍（※3）。

※1.歩道に「普通自転車歩道通行可」の標識がある場合、13歳未満の子ども・70歳以上の高齢者・身体の不自由な方などが通行する場合、工事等で車道通行が困難な場合、警察官の指示がある場合などを除き、歩道は通行不可。
※2.信号交差点では信号を遵守し、「歩行者・自転車専用」や「自転車専用」の表示がある場合は、その表示のある信号に従う。
※3.警察庁交通局による「令和6年における交通事故の発生状況について」より。

動画視聴（8分） 動画視聴（6分）	日頃の交通場面や自分の行動を思い出しながら、次の動画を視聴させる。 テーマ①（問題・解説動画：傘差し運転・並進）を視聴 テーマ②（問題・解説動画：イヤホン使用運転・スマートフォンのながら運転・車道逆走）を視聴	○ 主人公たちの交通行動に注目させる。 ○ 日頃の自分の交通行動を振り返りながら視聴させる。
個人学習（2分）	ワークシートのディスカッションA-1「 日常のことを思い出し、自転車で違反したことの交通ルールと、違反した理由を書き出してみましょう。 」について、日常の自転車の利用方法を思い出させて、個人でワークシートに書き出させる。	○ 交通違反の処罰や聞き取りが目的ではないので、正直に振り返るようにさせる。
グループディスカッションAと発表（5分）	ワークシートのディスカッションA-2「 違反したことの交通ルールとその理由を発表し合い、どうすれば違反をせずに済むか話し合ってみましょう。 」について、 ① 個人で書き出した違反とその理由をグループ内で各自発表後、最も多かった違反について、違反防止策をグループ内で話し合わせる。 ② 違反理由については「違反するに至った経緯」や「そのときの気持ち（や考え方）」などを出し合い、それをもとに「どうすれば違反せずに済むか」、さらにその防止策が実行可能かなど、より深く掘り下げて考えるように促す。 ③ グループ内で出た意見について、数人に発表してもらう。	○ ディスカッションでは、メンバー全員が発表できるように配慮させる。 ○ 違反に至った経緯（時間的制約、法令遵守の希薄さなど）や、防止策は本当に実行できるかという観点も含めて、より深く掘り下げて考えるように促す。

手順（時間）	指導・学習内容	留意点
<div data-bbox="17 62 471 828">動画視聴（6分）</div> <div data-bbox="17 828 471 1075">話し合う違反の選定とグループディスカッションB（10分）</div>	<div data-bbox="471 62 1768 828"><p>テーマ③（問題・解説動画：歩道徐行等義務違反・信号無視・一時不停止）を視聴させる。</p><p>① ワークシートのディスカッションB-1「動画に出てきた違反（または、その他の違反）のうち、グループで話し合う違反を一つ決めましょう」について、話し合う違反を決めさせる。</p><p>② ワークシートのディスカッションB-2「グループで決めた違反をした場合、どのような事故が起こるか、また、その事故による被害と影響を話し合ってみましょう」について、「想定される事故（相手当事者と事故の態様）」を決めたうえで、相手と自分の身体や物について「想定される被害」を話し合わせる。</p><p>③ さらに、それらの被害によって、自分や相手、その周囲に対してどのような影響が生じるかを話し合わせる。</p><p>④ワークシートのディスカッションB-3「その事故を防ぐためにはどうすれば良いでしょうか。グループで話し合ってみましょう」について、</p><ul style="list-style-type: none">・事故の原因に対する自分たちの気持ちや考え方を、日頃の自分たちに置き換えて話し合わせる。・さらに、その事故を防ぐための防止策や安全行動について話し合わせる。</div> <div data-bbox="471 828 1768 1075"><p>① 全体発表として、「事故状況」と「相手と自分への影響」「事故原因」「事故防止策や安全行動」について発表を行い、他の意見を共有させる。</p><p>② 配付資料を活用し、重大な違反をしたときや交通事故を起こしたときなどは「青切符」では済まされず、刑事手続きによって違反処理が行われること、状況によっては将来に影響があることに触れる。</p></div>	<div data-bbox="1768 62 2530 828"><p>○ 日頃の自分の交通行動を振り返りながら視聴させる。</p><p>○ 学校周辺などの身近な交通場面を思い出しながら、考えさせるようにする。</p><p>○ 話し合う違反については動画に出てくる違反以外でも良く、ディスカッションAで取り上げた違反を活用しても良い。</p><p>○ 想定される「被害」については、単に「けがをした」ではなくけがの程度などをより具体的に考えさせる。</p><p>○ 深く掘り下げられていないグループには、軽傷・重傷・死亡などの被害の程度を変えて考えるようにさせる。</p><p>○ 想定される「影響」については、自分事として具体的に話し合うように促す。短期的な影響だけでなく、将来にどのような影響があるか深く掘り下げて話し合うように促す。</p><p>○ 交通事故が当事者だけでなく、その周囲の人々にも及ぶことを意識させ、どのような影響が波及するかを話し合わせるようにする。</p><p>○ 事故の原因は単に「違反が原因」ではなく、自分の日常的な交通行動や気持ちにも原因があることを意識させ、話し合わせる。</p><p>○ 事故防止策や安全行動については、単に「交通ルールを守る」といった漠然とした意見ではなく、より具体的に話し合わせるようにする。</p></div> <div data-bbox="1768 828 2530 1075"><p>○ 加害事故では「当事者責任」が発生し、将来への影響が出る可能性もあることを理解させ、さらに自転車保険等への加入の必要性を理解させる。</p></div>
<div data-bbox="17 1075 2530 1418"><p>自転車での加害事故と問われる責任</p><p>法令違反をして事故を起こすと刑事上の責任が問われる。さらに相手にケガを負わせた場合や、相手の財物を壊した場合は、民事上の損害賠償責任も発生する。</p><div data-bbox="50 1185 476 1296"><p>刑事上の責任</p><p>相手を死傷させた場合は「重過失致死傷罪」等の刑事罰がある</p></div><div data-bbox="517 1185 922 1296"><p>民事上の責任</p><p>被害者の身体や器物に対する損害賠償の責任を負う</p></div><p>※交通事故を起こした場合には、左記2つの責任のほか、被害者を見舞い、誠実に謝罪するという「道義的な責任」を果たすことが必要で、運転免許保有者に対して、免許の停止といった「行政上の責任」を負う場合もある。</p></div>		

手順（時間）	指導・学習内容	留意点
<div> <div>刑事上の責任</div> <p> 道路交通法違反をして交通事故を起こすと、場合によっては刑法の重過失致死傷罪に問われることがあり、事故の重大さなどによっては拘禁刑や罰金といった厳しい刑事罰を受けることもあります。こうした刑罰は、いわゆる前科として記録が残り、さまざまな免許や資格を得る機会が損なわれ、将来の夢や人生設計にも大きく影響します。 </p> <div> <div> <div>刑事罰を受けると免許や資格が与えられない場合がある職業</div> </div> <div> <div>罰金刑以上の刑事罰で制限</div> <div>医師・看護師・獣医師・保育士・調理師 等</div> </div> <div> <div>拘禁刑以上の刑事罰で制限</div> <div>国家公務員・地方公務員・教員・弁護士・税理士 等</div> </div> </div> </div>	<div> <div>民事上の責任</div> <p> 事故によって相手に損害（ケガ、物損など）を与えた場合に、その損害を金銭で補償する義務があります。 </p> <div> <div>判例からみる高額賠償例（日本損害保険協会調べ）</div> <div> <div> <div>9,521万円※</div> <div> 男子小学生（11歳）が夜間、帰宅途中に自転車で走行中、歩道と車道の区別のない道路において歩行中の女性（62歳）と正面衝突。女性は頭蓋骨骨折等の傷害を負い、意識が戻らない状態となった。（神戸地方裁判所、2013年7月4日判決） </div> </div> <div> <div>9,330万円※</div> <div> 男子高校生が、夜間、イヤホンで音楽を聴きながら無灯火で自転車を運転中にパトカーの追跡を受けて逃走し、職務質問中の警察官（25歳）と衝突。警察官は、頭蓋骨骨折等で約2か月後に死亡した。（高松高等裁判所、2020年7月22日判決） </div> </div> <div> <div>9,266万円※</div> <div> 男子高校生が昼間、自転車横断帯のかなり手前の歩道から車道を斜めに横断し、対向車線を自転車で直進してきた男性会社員（24歳）と衝突。男性会社員に重大な障害（言語機能の喪失等）が残った。（東京地方裁判所、2008年6月5日判決） </div> </div> <div> <div>※記載額は判決認容額です。</div> <div> 判決認容額とは、裁判における判決文で加害者が支払いを命じられた金額です（金額は概算額）。 </div> <div> 裁判後の上訴等により、加害者が実際に支払う金額とは異なる可能性があります。 </div> </div> </div> </div> </div>	
<div>行動目標の策定と宣言（1分）</div>	<div> <p>今後、一生交通事故に遭わない、事故を起こさないための行動目標を書かせ、隣席同士で見せ合って宣言する。</p> </div>	<div> <p>○「行動目標」は、単に「交通ルールを守る」などの漠然としたものにならないよう、より具体的に記述するよう促す。</p> <p>○「行動目標」はカード等に記入したうえで生徒手帳に保管させるなど、日常の交通安全教育に役立つ工夫をすると良い。</p> </div>

参照ウェブサイト

警察庁 自転車ポータルサイト <https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/bicycle/portal/index.html>

一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 <https://www.jatras.or.jp/>

公式特設サイトについて

本教材をはじめ、動画、各種資料データがダウンロードできます。ぜひご活用ください。

ファーストビュー

ファーストビュー画面では制作の意図や背景、及び「青切符」に関する紹介と簡単な説明を記載しております。メイン画面トップ右上、「当教材について」ボタンをクリックすると再度表示されます。

リンクボタン

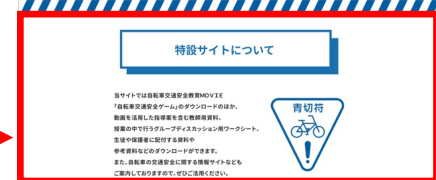
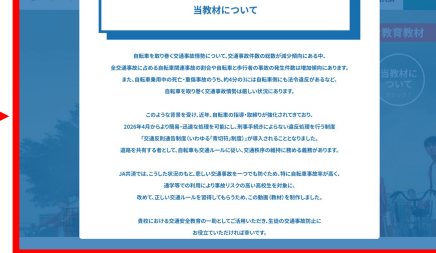
クリックすることで、各項目箇所へアクセスできます。
MOVIE：動画解説エリアへ
授業活用PDF資料：資料DLエリアへ
参考情報：各種参考情報エリアへ

グリーティング

特設サイトについての簡単な解説です。

動画解説エリア

動画『自転車交通安全ゲーム』の解説です。



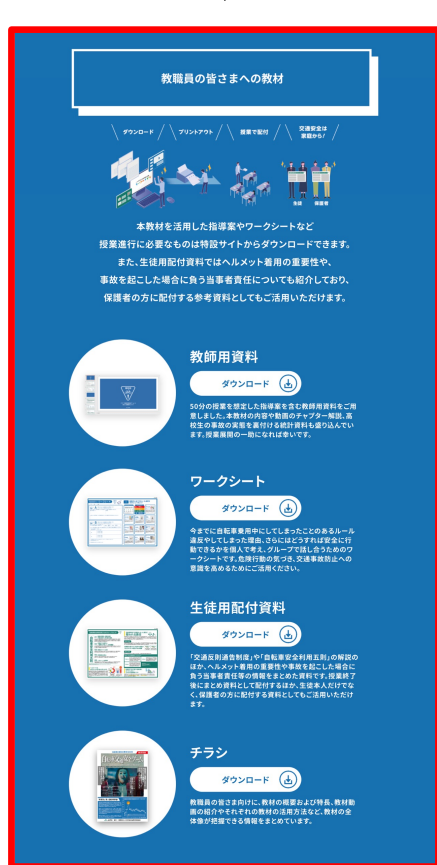
動画再生エリア

全編視聴やテーマごとの視聴、各チャプターごとの視聴など状況に応じた動画を再生することができます。



資料DLエリア

ワークシート、生徒用資料、教師用資料の各種資料がダウンロードできます。



各種参考情報エリア

自転車の交通安全に関する各種情報サイトやPDFをご確認いただけます。

